

# GP250S

ユーザーマニュアル



[www.royalalloy.com](http://www.royalalloy.com)



*A real classic*

## はじめに

この度はロイヤルアロイ (Royal Alloy) のスクーターをご購入いただき、ありがとうございます。ロイヤルアロイの製品は、高い技術力と信頼性に裏打ちされており、製造するRAエンジニアリング社とそのパートナー企業とが持つ、様々な目的に向けてお使いいただけるモーターサイクルやスクーターを製造してきた深い経験や、広範な知見を活用して設計されています。

ロイヤルアロイ製品が市場をリードする立場にあるのは、こうした実力があるからこそ、と言えるでしょう。本マニュアルではこのスクーターの使用方法、操作、基本的な点検やメンテナンスなどについて記載しています。もしマニュアルの記載事項で分からないことがあった場合は、ご購入された販売店にお尋ねください。

ロイヤルアロイ製スクーターは、製造日時点で課せられる環境規制に適合した商品です。規制適合状態を維持するためにも、本マニュアルに記載された指示やメンテナンススケジュールを守ってください。

このマニュアルには、以下のような重要事項が記載されています。

### 注意:

必ずお守りいただきたい事項、手順が示されています。指示をお守りいただけない場合、安全性が脅かされる恐れがあります。

### 注目:

商品への損傷などを避けるために必要な手順が示されています。

### 警告:

ご自身や周辺の方にケガが及ぶような危険、あるいは商品への損傷が及ぶ可能性を避けるために必ず従ってください。

**注目**

このマニュアルはスクーターの一部として取り扱いいただき、譲渡される時も含め、常時携帯してください。

**注目**

RAエンジニアリング社は商品品質の向上に日夜全力を傾注しています。本マニュアルは印刷時点における最新の情報をもって更新されています。とはいえ、マニュアルの内容が実際の車両とは異なる場合があります。もしご質問などがある場合は、ご購入元の販売店にご相談ください。

 **警告**

スクーターにお乗りになる前に、本マニュアルを注意深くお読みください。

 **警告**

イグニッションスイッチを操作する前に、完全に充電されたバッテリーが正しく接続されており、バッテリーターミナルへの接続が緩んでいないことを確認してください。

このユーザーマニュアル内の情報の正確性を確保するためにあらゆる努力が払われていますが、仕様は予告なく変更される場合があります。相違点がある可能性があります。E. & O. E.

## 目 次

各部の名称について .....	7	フロントラゲージボックス(小物入れ) .....	19
車体番号/エンジン番号 .....	9	燃料及び油脂類について .....	20
スピードメーターの機能(GP250S).....	10	エンジンオイル .....	20
スピードメーターの機能(GP250S MT).....	12	トランスミッションオイル .....	20
各部の機能と操作 .....	13	推奨される燃料とオイル .....	20
イグニッションスイッチ .....	13	慣らし運転について .....	21
左ハンドルスイッチ .....	14	始業前点検について .....	22
右ハンドルスイッチ .....	15	ブレーキの効きとレバーの遊び .....	23
燃料油キャップ .....	16	フロントブレーキとアンチダイブリンケージの点検 .....	23
冷却水キャップ .....	17	タイヤの点検 .....	23
シート - すべてのバージョンについて .....	18	燃料の残量の点検 .....	24
シートロック (すべてのバージョンについて) .....	18	エンジンオイルレベルの点検 .....	24

## 目 次

トランスミッションオイルレベルの点検 .....	25	エアーフィルター .....	34
<b>ご乗車にあたって .....</b>	<b>26</b>	タイヤ .....	36
エンジンの始動 .....	26	ヒューズ .....	38
走行開始 .....	26	<b>トラブルシューティング .....</b>	<b>38</b>
<b>点検とメンテナンス .....</b>	<b>28</b>	<b>車両を保管する場合 .....</b>	<b>39</b>
初回点検 .....	29	車両を再び走らせる場合 .....	40
メンテナンススケジュール .....	30	<b>諸元表 .....</b>	<b>41</b>
バッテリー .....	32		
スパークプラグ .....	32		
バッテリー .....	32		
スパークプラグ .....	32		
燃料ホース .....	34		

## 安全にスクーターをお楽しみいただくために

交通法規を守り、安全第一でライディングを楽しみましょう。スピードを控え、安全の範囲内でスクーターを走らせましょう。

### 走り出す前に練習を

混合交通に乗り出す前に、広く、また交通量の少ない場所でスクーターの操作に慣れるように練習してみましょう。練習は安全のためには不可欠です。ライディングのためのトレーニングを受講したり、必要に応じて試験や資格などの取得も公道に出る前に行いましょう。

### ご自身の安全速度を知りましょう

安全な速度とは、道路状況や天候、運転技術などによって異なります。ご自身にとって安全な速度を知っておくことは、交通事故などから身を守る一助になります。

### 雨天の走行は気を付けて

濡れた路面や湿った路面を走行することは危険です。高速走行は避け、カーブを曲がる時などは特に注意して走行しましょう。雨天時のブレーキ距離は、好天時の倍以上にも伸びる恐れがあることもよく理解しておくこと。

### ライディングに適したヘルメットを着用しましょう

スクーターに乗るときには必ずヘルメットを着用しましょう。顎ひもを正しく締めることも忘れずに。

### 安全な服装に留意しましょう

比較的明るい色彩の、身体に合った服を選びましょう。規格に合格したプロテクターも有効です。またグローブも必ず装着してください。

### お守りいただきたい保守・点検

下記の各項を必ずお守りください

- ・ 始業前点検を必ず行うこと。
- ・ 半年ごとに定められた点検を行うこと。
- ・ 1年ごとに定められた点検を受けること。
- ・ メンテナンススケジュールに示す点検内容に従うこと。
- ・ 疑問がある場合はソーシャルメディアではなく、販売店にご連絡ください。

### 高温に注意

マフラーは高温になり、やけどをする恐れがあります。通行人などがマフラーに触れてやけどする恐れが無いよう、駐車時には十分に注意してください。

### 不正な改造を行わないこと

車両の安全性を確保するためにも、改造などを行わないこと。

## 各部の名称について

1. マフラー	4. シート- 3種類のオプション	7. フロントウインカー - 2種類
2. テール/ブレーキライト	5. 右側アクセル、両側ブレーキレバー	8. フロント・アンチダイブサスペンション
3. リヤキャリア	6. ヘッドライト	9. ラジエター/ラジエターファン



**⚠ 警告**

**リアキャリアの最大荷重は5 kgです**

1.左/右ブレーキレバー	5. リアウインカー	9. メインスタンド
2.バックミラー	6. リアショックアブソーバー	10. サイドスタンド
3. グリップスイッチ	7. リアディスクブレーキ	11. フロントディスクブレーキ
4. グローブボックス	8. エアフィルター	12. フロント・左側ショックアブソーバー





## 車体番号/エンジン番号

### エンジン番号

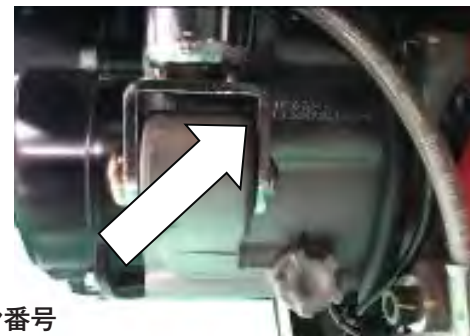
エンジン番号はクランクケースアセンブリの後部に打刻されています。

#### 注目

補修部品を正しく発注するためにも、エンジン番号や車体番号を控えておいてください。

### 車体番号

車台番号は、車体右側のフレームレールに打刻されています。



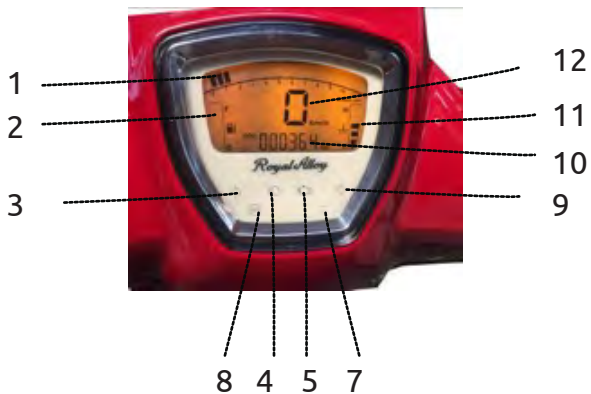
今後のために、車体番号とエンジン番号を以下に控えておいてください。

車体番号：

エンジン番号：

## スピードメーターの機能 (GP250S)

スピードメーター(Aタイプ)



「MODE」ボタンはフロントラゲッジボックスにあります



### 1 - エンジン回転計

エンジン回転数をバーインジケーターで表示します。

### 2 - 燃料計

燃料タンク内の燃料の残量を示します。ゲージが「F」を指すと燃料タンクは満タンで、これが「E」になると燃料残量が少なく、補充が必要であることを示します。

### 3/9 - 左ウインカー & 右ウインカー・インジケーター

左右のインジケーターが示す通りに、車両のウインカーが点滅していることを表示します。

### 4 - ハイビーム / ロービーム・インジケーター

### 5 - システム警告灯

この警告灯が点灯したら直ちに運転をやめ、お買い求めの販売店に相談してください。

### 6 - 「MODE」ボタンの機能については次ページを参照

## スピードメーターの機能 (GP250S)

### オドメーター⇄トリップメーター

(表示の切り替え方)

- ・ イグニッションキーをオンにします。
- ・ モードボタンを押して、離します。これでトリップメーターとオドメーターを交互に表示させることができます。
- ・ 表示がトリップメーターのときに、モードボタンを5秒間押し続けると、トリップカウンターをリセットすることができます。

### KPH(キロ表示) ⇄ MPH(マイル表示)

オドメーター表示時にモードボタンを5秒間押し続けると、キロ表示とマイル表示とを入れ替えることができます。

### 7 - オイルインジケーター

運転中にこの警告灯が点灯した場合は、即座にエンジンを止めてください。そしてオイルレベルをチェックし、問題がない場合は販売店にご相談ください。

### 8 - ABS インジケーター

走行中にこの警告灯が点灯した場合は、販売店にご相談ください。

### 10 - 距離計表示

オドメーター(総合走行距離計)とトリップメーター(区間距離計)を表示します。

### 11 - 水温計

### 12 - スピードメーター

現在の速度をキロもしくはマイルで表示します。

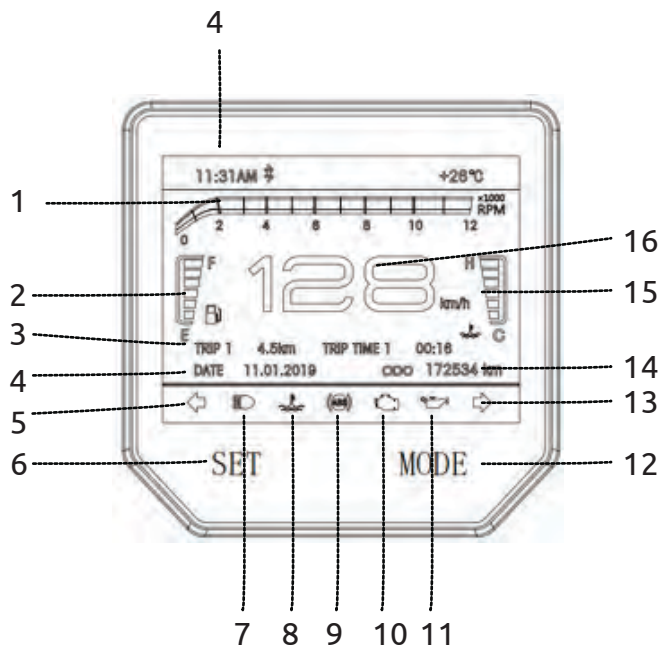


**警告**

イグニッションキーをONにする前に、充電されたバッテリーが確実に接続され、緩みなどがないことを確認してください。

## スピードメーターの機能 (GP250S MT)

スピードメーター (Bタイプ)



### 1 - エンジン回転計

エンジンの回転数をバーインジケータで示します。

### 2 - 燃料ゲージ

燃料タンク内の燃料の残量を示します。ゲージが「F」を指すと燃料タンクは満タンで、これが「E」になると燃料残量が少なく、補充が必要であることを示します。

### 3 - トリップメーター

いつでも「0」にリセットして走行距離を記録することができます。

### 4 - 日付と時刻

日付と時刻を表示します。

### 5/13- ウィンカー・インジケータ

左右のインジケータが示す通りに、車両のウィンカーが点滅していることを表示します。

### 6/12 - 左右の設定ボタンの機能 (下記参照)

左の「SET」 ボタンを短く押す：KPH と MPH が切り替わります。  
右の「MODE」 ボタンを長押し：トリップメーターがリセットされます。

## スピードメーターの機能 (GP250S MT)

左の「SET」ボタンを長押しすると時計設定モードに入ります。月の数字が点滅しているときに右の「MODE」ボタンを短く押し設定します。その後、左の「SET」ボタンを短く押し、月・日・年・分・AM / PM」と順番に変わっていくので、それぞれを設定します。設定後、左の「SET」ボタンを長押しして保存します。もしくは15秒以上ほかの操作がない場合は、自動的に保存して終了します。

### 7 - ハイビーム / ロービーム・インジケーター

### 8 - 水温計

### 9 - ABS インジケーター

走行中にこの警告灯が点灯し続ける場合は、お買い求めの販売店にご相談ください。

### 10 - システム警告灯

走行中にこの警告灯が点灯したら直ちに運転をやめ、お買い求めの販売店に相談してください。

### 11- オイル・インジケーター

走行中にこの警告灯が表示された場合は、すぐに \*エンジンを停止\* してください。オイルレベルを確認し、OKであれば、お買い求めの販売店にご相談ください。

### 14 - オドメーター (総走行距離表示計)

車両が走行した総距離を示します。

### 15 - 水温計

### 16 - スピードメーター

現在の速度をキロ(KPH)もしくはマイル(MPH)で表示します。

### 警告

イグニッションキーをONにする前に、充電されたバッテリーが確実に接続され、緩みなどがないことを確認してください。

## 各部の機能と操作

### イグニッションスイッチ

オン	エンジンが始動でき、走行できます。 イグニッションキーの取り外しはできません。
オフ	エンジン始動不可。稼働中のエンジンを停止できます。イグニッションキーの抜き差しができます。
ロック	ハンドルをロック (固定) することができます。 イグニッションキーの抜き差しができます。

## 各部の機能と操作

### イグニッションスイッチ

オン	エンジンが始動でき、走行できます。 イグニッションキーの取り外しはできません。
オフ	エンジン始動不可。稼働中のエンジンを停止できます。 イグニッションキーの抜き差しができます。
ロック	ハンドルをロック（固定）することができます。 イグニッションキーの抜き差しができます。

車両から離れる際には、ステアリングをロックすることで、盗難されにくくなります。

1. ハンドルを左に切ります。
2. イグニッションキーを差し込み、キーをさらに押し込んで左に回し、「LOCK」の位置に合わせます。
3. キーを抜きます。

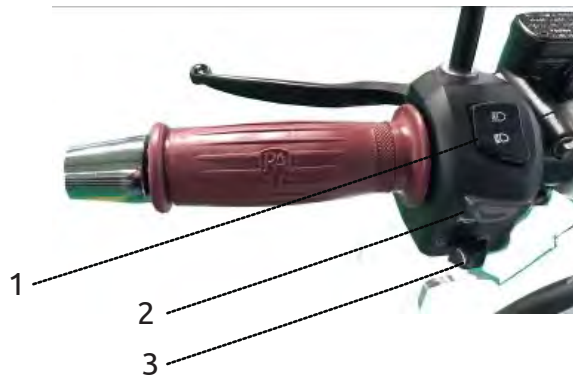
※ステアリングロックの解除は、ロック位置にあるキー穴にイグニッションキーを差し込み、押し込まずにそのまま右にキーを回してOFFの位置に合わせることで行います。



### 注目

- ・発進する前にハンドルバーを動かしてステアリングロックが解除されていることを確認してください。
- ・ヒント: ステアリングロックを解除するときにイグニッションロックが回しにくい場合は、キーを回すときにハンドルバーをゆっくりと左右に動かしてください。

### 左ハンドルバースイッチ



#### 1 - ビームスイッチ

ヘッドライトが照らす方向を入れ替えるために使用します。

<b>HIGH</b>	ハイビーム（上向き）になります。
<b>LOW</b>	ロービーム（下向き）になります。 （通常はこちらを使用します）

## 2 - ホーンボタン

警音器（ホーン）を鳴らすときに押します

## 3 - ウィンカースイッチ（方向指示器）

安全な方向転換やレーンチェンジのために、右もしくは左へのターンシグナル(ウィンカー)を点灯させるためのスイッチです。

<b>右</b>	右側のウィンカーが点滅します。
<b>左</b>	左側のウィンカーが点滅します。
<b>中央</b>	中央位置でボタンを押し込むことで、ウィンカーの点滅をキャンセルすることができます。

ウィンカー(方向指示器)は、その必要がない場合には適消灯し、他の交通の妨げにならないように注意しましょう。

## 右ハンドルバースイッチ



## 4. スターターボタン

エンジンを始動させるときに押します。イグニッションキーをONにし、リアブレーキレバーを握り、スターターボタンを押してください。リアブレーキレバーを握り、かつサイドスタンドを格納していないと、エンジンはかかりません。

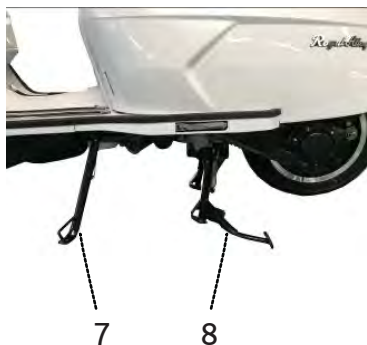
## 5.スロットルグリップ

スロットルグリップは、スピードを調整するために使用します。手前にひねる（反時計回りに回す）とエンジンの回転数は上昇します。奥に回す（スロットルグリップを戻す）ことで、エンジンの回転数を落とすことができます。

## 6. ブレーキレバー

ブレーキレバーの操作によって、スクーターの速度を調整し、

徐行させたり停止させることが可能です。ブレーキはレバーをグリップに近づけるように丁寧に引き寄せることで効かせることができます。右もしくは左手のブレーキを握ると、後部制動灯（リアブレーキライト）が点灯します。



## 7. サイドスタンド

サイドスタンドは、サイドスタンド後端を強く押し下げ、前方向に止まるまで回転させることで使用します。

注意：サイドスタンドが完全に格納されていないと、エンジンは始動できません。

## 8. メインスタンド

メインスタンドは、まず足でスタンドを地面に届くまで押し下げ、次にスクーター後部を後方に引くようにしてスタンドが確実に出て車体を支え、リアタイヤが浮くようにして使用します。リアキャリアをつかむとスタンドの出し入れがしやすくなります。

※メインスタンドを使用する際には、必ずスクーターが平面、あるいは坂の上に向かって置かれていることを確認してください。

## 燃料油キャップ

燃料油キャップは、シート下にあります。燃料油キャップを開けるには、鍵穴にイグニッションキーを挿入しタブと一緒に時計方向に捻ります。キーとタブは並行に動くので、どちらか一方だけを強引に回して開けることが無いように注意してください。キャップを閉めるときは逆の手順で行います。

給油口近くに、操作上の注意（Operation Notice）ステッカーが貼ってあります。

### Fuel Cap Operation

Lift flap insert key and whilst holding flap AND key between thumb and forefinger, turn the flap to open.

Refitting is same sequence in reverse.



## 燃料油キャップ

正しい操作方法を示すビデオは、次のリンクでご覧いただけます。

<https://bit.ly/4fg9kuA>

※または右のQRコードをスキャンしてください。



SCAN ME



### 注目

キーブレードに過度の圧力がかからないよう、キーと燃料油キャップのフラップを一緒に握って回してください。

## クーラントキャップ



クーラントキャップは左側のサイドパネルの後ろにあります。

### 警告

エンジンが熱い間は、絶対にクーラントキャップを開けないでください。熱くなった冷却水が吹き出し、重度の火傷や怪我を引き起こす可能性があります。

## シート - すべてのバージョンについて

### シート(セパレートタイプの場合)



#### シート開閉の方法

1. フロントシートパッドの後端をていねいに持ち上げると、上の図のようにヒンジが開きます。
2. シート後端を持ってていねいにシートを押し下げ、シート下の吸盤が車体中央にきちんとはまるように押し付けてください。

### シートロック (オプションのシングルシートの場合)



#### シート開閉の方法

1. シートの左後部にあるシートリリースボタンを押すとシートが開きます。
2. シートを閉じるときは、シートがロックピンで固定されるまで、ていねいにおろします。

## フロント ラゲージボックス（小物入れ）



**⚠ 注意**

- 壊れやすいものは入れないこと
- 貴重品を入れないこと
- 燃料や油脂類を入れないこと
- 濡れて困るようなものは入れないこと

## 燃料とオイルの推奨事項

### 燃料

オクタン価90以上の無鉛ガソリンのみを使用してください。有鉛ガソリンや添加剤の使用は、特に排ガス浄化装置（キャタリティックコンバーター）を損傷させかねません。

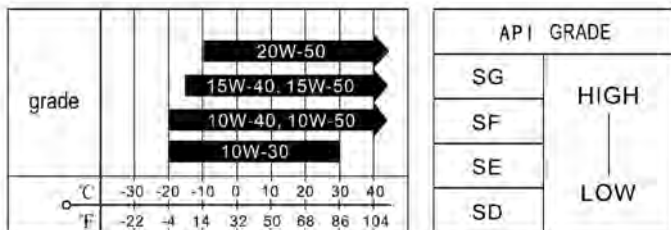
### エンジンオイル

エンジンの性能を維持し、寿命を保つためにも、高品質の4サイクルエンジン用半化学合成油を使用してください。オイル粘度はSAE 10W-40以上、API 指数SE またはSD のオイルを使用すること。推奨品はMOTUL SCOOTERPOWER 5W-40。同等のオイルを入手するため、下記の粘度表を参考にしてください。

### トランスミッションオイル

高品質のEP 80w-90 相当品のギアオイルを使用してください。推奨品はMOTUL GEARBOX 80W-90 です。

API分類： GL4, GL5



## 慣らし運転について

お使いのスクーターの寿命を決定するのは、最初の1000kmとされています。この間、正しい慣らし運転を行うことで、スクーターの寿命は最大化され、また存分にその実力を発揮するようになります。製造工程で用いられる部品は極めて高品質な素材で製造され、最大限の精度（最小限の公差）をもって作り上げられています。正しい慣らし運転によって、機械加工された金属の表面が磨き上げられ、その後のエンジンのスムーズな動きにつながるでしょう。 おおむね60時間程度の走行で内部部品の感触が向上し、この慣らし期間中にエンジンは柔らかく滑らかに動くようになり、性能は向上するのです。

### 慣らし期間中のスロットル開度について

以下の表に示したように、慣らし期間中はアクセルの開度を控えて運転しましょう。

最初の160kmまで	スロットル開度は1/2以下
161km~400kmまで	スロットル開度は3/4以下

### エンジン回転数は幅広く試しましょう

エンジン回転数は一定で走ることなく、様々な回転数を試みましょう。これによってエンジン内部の各部品に適切な負荷がかかったり、休められたりして、慣らしが進行していきます。慣らし運転には適度な負荷をかけることが必要なのです。とはいえ、過度な負荷をかけることが無いよう、アクセル開度の上限を守って、適切にエンジンを回してあげてください。

### 連続した低速度での走行は避けましょう

慣らし期間中に一定の低速度でエンジンを走らせることは避けてください。決められた範囲内で自由に加減速をしてください。ただし最初の1,600 kmまでは、アクセルを10分以上全開にしたままにしないでください。

## 走り出す前にエンジンオイルを各部にいきわたらせましょう

エンジン始動後、負荷をかけたり回転を上げたりする前に、エンジンを十分に暖気してオイルを各部にいきわたらせましょう。オイルはエンジンにとっての血液です。エンジンの寿命を永らえるためにも、この工程を忘れずに行いましょう。

## 初回点検を必ず行いましょう

初回1000 kmの点検は、ご愛用のスクーターにとって最も重要な点検でもあります。慣らし運転の間、エンジン内のコンポーネントが動き、緩み、または偏ったりと様々なことが起きます。点検でこれらをリセットし、すべての締結部品を締めなおし、古いオイルを新しいオイルに入れ替えましょう。1000 km時における適切なメンテナンスは、エンジンの寿命を延ばし、その後の点検間隔も適切なものにしてくれます。

### 注意

初回1000km点検は、本マニュアルのメンテナンス・セクションに詳述されています。十分に同項の警告や注意に着目しながら点検を実施してください。適切な点検を受けなかった場合、車両の保証の適用外となります。

## 始業前点検について

スクーターにお乗りになる前に、以下の各項の始業前点検を行いましょう。点検を軽んじることなく、必ずすべての項目の点検を行ってから乗車してください。

### 警告

積載されているバッテリーが満充電であること、バッテリーが適切に固定されていること、バッテリーのターミナルやコネクタがきちんと固定されていることを確認してください。バッテリーとコネクタのゆるみは、ECUのような重要電装部品を破壊しかねません。

点検部位	点検内容
ステアリングハンドル	<ul style="list-style-type: none"> <li>・スムーズに左右に動くこと</li> <li>・動きに引っ掛かりや違和感がないこと</li> <li>・不必要な遊びやがたつきがないこと</li> </ul>
ブレーキ	<ul style="list-style-type: none"> <li>・レバーの遊びが適切であること</li> <li>・ブレーキの作動に異常がないこと</li> </ul>
タイヤ	<ul style="list-style-type: none"> <li>・適切な空気圧であること</li> <li>・十分に溝の深さが残っていること</li> <li>・ひび割れ、切り傷などがないこと</li> </ul>
燃料	<ul style="list-style-type: none"> <li>・十分な燃料が入っていること</li> </ul>

点検部位	点検内容
灯火類	ヘッドライト、テールライト、ブレーキライト、ウィンカーなど、すべての灯火類が作動すること
警告灯	オイル警告灯、ABS警告灯やその他の警告灯に不具合がないこと
ホーン	正しく機能すること
エンジンオイル	正しいレベル（量）にあること
スロットル	<ul style="list-style-type: none"> <li>・スロットルの遊びが適切であること</li> <li>・スロットルを離れた際に、スムーズかつ適切に全閉まで戻ること</li> </ul>

### ブレーキの利き具合とレバーの遊びの点検

ブレーキレバーをブレーキが利き始める（握って硬さが感じられる）まで握りこみます。そのときレバー先端の移動距離（遊び）が 10～20mmになるように調整してください。

### フロントブレーキとアンチダイブリンクの点検

ステアリングを左右に動かしてアンチダイブリンクバーが自由に動くかを確認します。上下の動きに過度の遊びが見つかった場合は、お買い求めの販売店に相談してください。

### タイヤの点検

タイヤの状態を外観からよく確認し、次いで空気圧を点検します。タイヤの空気圧が異常な場合は、以下の推奨空気圧に調整してください。

フロントタイヤ	32psi
リヤタイヤ	34psi

タイヤの表面にひび割れ、損傷、異物、異常な摩耗などがなければ確認してください。

## 燃料の残量の点検

目的地に行くか、近隣のガソリンスタンドまで行ける十分な量の燃料があることを確認しましょう。もしメインキーをONにした時の燃料ゲージの表示が赤を指している場合は燃料切れが間近ですから、なるべく早く給油してください。

## エンジンオイルレベル（量）の点検

**※注意！** オイルレベルは必ずゲージの上限、右図の「B」までの間にあるようにしましょう。エンジンに深刻なダメージを与える恐れがあるため、上限値「B」以上の量を入れたり、下限「C」の位置を下回ったりしないよう、注意してください。エンジンオイル量の適切な管理は、使用者の義務です。

1. 車体をメインスタンドを用いて水平状態に固定します。
2. エンジンを始動し、オイルが十分にエンジンにいきわたったのち、エンジンを停止させます。
3. 5分間待ちエンジンオイルがクランクケースまで戻ってから作業を開始します。
4. オイル注入キャップ/ディップスティックを緩め、外します。
5. ディップスティックに残っているオイルをきれいに拭い、再び所定の位置に入れます。  
ただし、ねじ込まないこと。オイルに漬けた後すぐに取り外し、オイルレベルを確認します。オイルレベルが右図の「B」と「C」の間にあることを確認してください。

6. 必要に応じて、オイル(MOTUL SCOOTERPOWER LE)を継ぎ足してください。ただし、上限値である図の「B」を超えて入れることが無いように注意すること。
7. ディップスティックを確実にねじ込んで取り付けてください。



## エンジンオイルレベルの確認方法

正しいエンジンオイル量の確認方法を示すビデオは、次のリンクでご覧いただけます。

<https://bit.ly/3SkmoG>

※または右のQRコードをスキャンしてください。



SCAN ME



### トランスミッションオイルレベルの点検

1. 車体をメインスタンドを用いて水平状態に固定します。
2. エンジンを始動し暖まったら停止させ、約5分間待ちます。
3. 矢印のディップスティックを緩めて外します。ディップスティックに残っているオイルをきれいに拭い、再び所定の位置に入れます。そのとき、ねじ込まないでください。
4. オイルに漬けた後すぐに取り外しオイルレベルを確認。1.5パールより上になっている必要があります。
5. 必要に応じてMOTUL GEARBOX 80W-90を補充しますが入れすぎないように注意してください。
6. ディップスティックをしっかりと取り付けてください。



### トランスミッションオイルレベルの確認方法

正しいトランスミッションオイル量の確認方法を示すビデオは、次のリンクでご覧いただけます。

<https://bit.ly/3yjcs0D>

※または右のQRコードをスキャンしてください。



SCAN ME

### エンジン始動と灯火類の点検

エンジンを始動し、ヘッドライト及びテールライトが点灯することを確認します。

前後のブレーキを別々に作動させ、ブレーキライトが点灯することを確認してください。

また、ウインカースイッチを操作し、左右のウインカーがきちんと動作することを確認してください。

### バックミラーの点検

シートに着座し、運転姿勢をとったときに、ミラー内で左右後方が確認できることを点検してください。

ミラー鏡面が清潔なこと、傷や割れなどがなく、およびハンドルバーに緩みがなく適切に取り付けられていることを点検してください。

### ナンバープレートとリフレクターの点検

ナンバープレートがしっかりと固定され、汚れや損傷がなく登録番号がはっきりと見えるかどうかを確認します。同時にリフレクターも汚れや損傷がないか確認してください。

## ご乗車にあたって

### 注意

エンジン始動前に、必ず以下を確認しましょう

1. 燃料とエンジンオイルの量を点検
2. スクーターをメインスタンドで立てる
3. 車体が水平かつ硬質な路面に立てられ安定していること
4. ブレーキをかける

### エンジンの始動

イグニッションキーを挿入し、右に捻ってON にします。

#### エンジンが冷えているとき

1. 前または後のブレーキレバーを握り、スロットルを1/8～1/4 回転程度開けて保持します。
2. エンジンがかかるまでスターターボタンを押します。
3. スロットル開度を約30 秒ほどそのまま保ち、エンジンがストール（停止）しないように調整しエンジンが温まるようにします。

#### エンジンが温まっているとき

1. 前または後のブレーキレバーを握り、スロットルを1/8～1/4 回転程度開けて保持します。
2. エンジンがかかるまでスターターボタンを押します。

### 注意

エンジンがかかったらすぐにスターターボタンから手を離すこと。そうしないと、スターターモーターやリンクギアに損傷を与える可能性があります。

数回試してもエンジンが始動しない場合は、スロットルグリップを 1/8 ～ 1/4 回転させてもう一度試してください。エンジンが始動したらすぐにグリップを離してください。

### 走行開始

メインスタンドを外し、スクーターに乗ります。

ハンドルバーを両手で持ち、メインスタンドを外します。前後のブレーキを保持しながら、左側から乗車します。シートにまたがったら左足で車体を支えましょう。

### 注意

走り出すまでスロットルグリップを開かないこと。

**周囲をよく見て、安全に走り出せることを確認します。**

方向指示器（ウィンカー）を出し、周囲をよく確認して走り出しても問題ないことを確認して下さい。走り出すまではリアブレーキレバーを確実に握っておきましょう。

**⚠ 注意**

特に後方から接近する車両などに十分注意を払うこと

**走り出しましょう。**

リアブレーキレバーを離し、スロットルグリップを徐々に開けて、スクーターを加速させていきましょう。

**⚠ 注意**

スロットルグリップを大きく開けすぎると、急加速などの危険を引き起こしかねません。

**スピードを調整します。**

スクーターを走らせるスピードは、スロットルグリップのひねり具合で調整します。グリップを手前側にひねれば速度が増しますから、ゆっくりとひねるように気を付けましょう。

減速はスロットルを戻して行います。

**ブレーキレバーを引き、停止します**

前後のブレーキは常に同時に使用するよう心がけましょう。スロットルグリップから手を緩め、素早く戻して、ブレーキレバーを適切に引き込みます。

ブレーキは徐々につけ、急ブレーキを避けるとともに、特に濡れた路面や荒れた路面では十分に注意を払いましょう。

**⚠ 注意**

前後いずれかのブレーキを強く握ることは、スリップの危険性につながります。

急ブレーキや急旋回はトラクションの喪失や事故の第一原因です。こうした急激な操作は避けましょう。

**雨天や冬季などは特段の注意を払って運転を。**

荒れた、あるいは濡れた路面はタイヤのグリップを低下させます。こうした条件では加速中の急旋回などは避けましょう。前方の車両とは適切な車間距離を維持しておきましょう。

雨天時の制動距離は一般に乾燥した路面の2倍程度になることを理解し、注意を払って運転しましょう。

スリップは濡れた路面や凍結路面では避けられないものです。したがって運転に集中し、いつでも速度を落とせるよう十分に注意して運転しましょう。

スクーターを洗車したり雨天や水たまりを走った後は、ブレーキの点検を。

スクーターを洗車した後や、水たまりを走り抜けた後などは、制動力が弱まっていることがあります。ブレーキが通常通り動作するように、速度を落とし、ていねいなブレーキングを行ってようすを見ましょう。

 **注意**

スクーターをメインスタンドで直立させているときは転倒しないよう、必ず水平な地面の上に保持し、車体を下り坂に向けたり、柔らかい路面に立てたりしないこと。  
必ずスクーターは水平面か、車体を坂の上に向けて直立させ停車すること。

**ハンドルバーロックをしましょう。**

スクーターを停車させるときは、必ずステアリングロック（ハンドルバーロック）を行い、盗難されないようにしましょう。

## 点検とメンテナンス

メンテナンススケジュールには、定期点検の間隔について期間と距離が示されています。それぞれ定められた期限の早い方が来たら、指示に従って車両を点検、調整してください。

もしお使いの環境がスクーターに大きな負荷がかかるような状況、たとえば頻繁にエンジンを全開にしたり、埃っぽく空気が汚れた環境下であったりした場合には、こうした定期点検はより頻繁に（短期間あるいは短走行距離で）行いましょう。そうすることで、スクーターの信頼性を維持できるようになります。お買い求めの販売店はさらに詳しく説明できますから、遠慮なくご相談ください。

ステアリング関係の部品やサスペンション、ホイールなど操舵系の部品は非常に重要な物なので、極めて注意深く取り扱い、点検する必要があります。安全を最大限確保するためにも、これらについてはお買い求めの販売店か、有資格のメカニックの手に委ねましょう。

## 初回点検

1000 km走行時の初回点検は最も重要です。慣らし運転期間中に、あらゆる部品は互いに擦り合わされ、エンジン内部の熟成がすすみます。初回点検ではこうした部品のすり合わせを調整しなおし、締結部品の正しいトルクでの締め直しを行い、汚れたエンジンオイルとフィルターの交換を行います。

エンジンの寿命を長く保ち、存分に能力を発揮できるよう、初回点検はタイミングが来たら速やかに行ってください。

### 注意

交換部品は必ず純正の補修部品を使用してください。また、メンテナンススケジュール上で(\*) マークで示した個所については、正規販売店での作業を強くお勧めします。それ以外については、本項で示す解説にのっとり個人で点検していただくことも可能です。ただし、このスケジュールにある点検を定められたとおりに実施されない場合、お使いのスクーターへの保証を提供できないことがありますことを、あらかじめご了承ください。

## メンテナンススケジュール

このスケジュールに示す各項は、当該点検タイミングで行うべき最も重要な項目です。 必要に応じて、また車両の状況に応じて点検範囲は適宜広げてください。

### 用例：

I = 点検、清掃、調整、注油、必要に応じて交換

C = 清掃

R = 交換

A = 締結

L = 給油

\* 3,000 km走行ごとに点検

\*\* 2年ごとに必ず交換

\*\*\* 4年ごとに必ず交換

	600 miles (1000km)	3700 miles (6000km)	7400 miles (12000km)	11200 miles (18000km)	14800 miles (24000km)	18600 miles (30000km)	22300 miles (36000km)	26000 miles (42000km)	29800 miles (48000km)	33500 miles (54000km)	37300 miles (60000km)
トルクカムと周辺部品			L		L		L		L		L
締結部品のゆるみ、規定トルク	I		I		I		I		I		I
ベルトカバー内のスライダー			R		R		R		R		R
クラッチベル		C	C	C	C	C	C	C	C	C	C
スパークプラグ			R		R		R		R		R
Vベルト			R		R		R		R		R
スロットル コントロール	A		A		A		A		A		A
エアフィルター		C	C	C	C	C	C	C	C	C	C
トランスミッションカバー/エアダクトフィルター			I		I		I		I		I
エンジンオイルフィルター	R		R		R		R		R		R
バルブクリアランス			A		A		A		A		A
ブレーキシステム	I	I	I	I	I	I	I	I	I	I	I
電装品とバッテリー	I		I		I		I		I		I
ブレーキフルード**	I		I		I		I		I		I
クーラント (冷却水) **	I		I		I		I		I		I
ギヤオイル	R		I		R		I		R		I
エンジンオイル*	R	I	R	I	R	I	R	I	R	I	R
ヘッドライトの向き調整			A		A		A		A		A
ウエイトローラー			R		R		R		R		R
試運転	I	I	I	I	I	I	I	I	I	I	I
ドライブ (プーリー) フェイス			I		I		I		I		I
ラジエター	I/C	I/C	I/C	I/C	I/C	I/C	I/C	I/C	I/C	I/C	I/C
タイヤ&ホイール	I	I	I	I	I	I	I	I	I	I	I
サスペンション			I		I		I		I		I
ステアリング	I		I		I		I		I		I
トランスミッション (CVT)			L		L		L		L		L
燃料ホース***	I		I		I		I		I		I
ベアリング	I	I	I	I	R	I	I	I	I	R	I

## トルク管理表

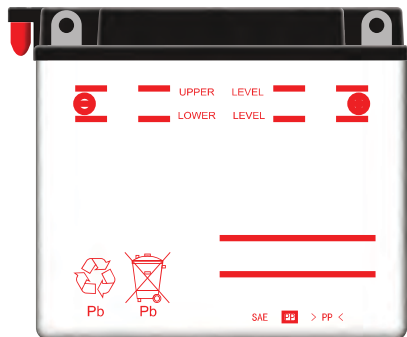
ボディと各部を締結しているボルト類のトルク管理を、初回は500km時に、その後3000kmごと、あるいは6か月ごとに行ってください。

## 指定トルクは以下の通り

No.	Item	Nm	Kg/m	Ref
1	フロントアクスルナット	53	5.3	/
2	ハンドルバーマウントボルト	49	4.9	/
3	ステアリングステムナット	30	3.0	/
4	ハンドルバー固定ボルト	25	2.5	/
5	フロントフォークマウントボルト	45	4.5	/
6	マスターシリンダーマウントボルト	10	1.0	/
7	ブレーキホースユニオンボルト	23	2.3	/
8	ブレーキキャリパーマウントボルト	26	2.6	/
9	ブレーキブリーダーニップル	7.5	0.75	/
10	フロントパネルボルト	23	2.3	/

No.	Item	Nm	Kg/m	Ref
11	リアアクスルナット	100	10.0	/
12	リアショックボルト	40	4.0	/
13	ブレーキレバーナット	11	1.1	/
14	エンジンブラケットマウントボルト	98	9.8	/
15	エンジンマウントボルト/ナット	80	8.0	/
16	アンチダイブレバーアセンブリ	26	2.6	/
17				
18				
19				
20				

## バッテリー



バッテリーはシート下、ボディ中央の取り外し可能なカバーの奥に位置しています。バッテリーはメンテナンスフリーのシールドタイプなので、液面や縦横上下などを管理する必要はありません。

### スパークプラグ

#### 取り外しとクリーニング

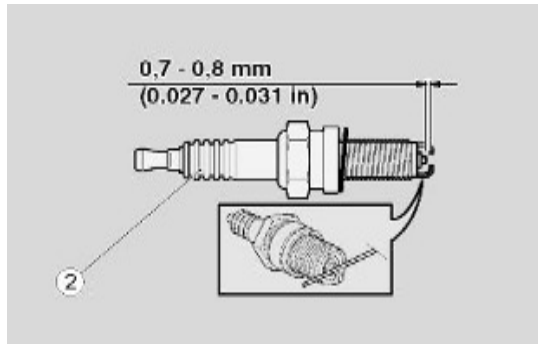
スパークプラグを取り外せるように、左側のパネルを3本のネジを緩めて取り外します。



#### 注意

以下の作業を行う前に、火傷の危険を避けるため、エンジンやマフラー、サイレンサーが常温になるまで冷ましてください。





プラグキャップを取り外します (1.)

### スパークプラグ (2.)

圧縮空気を使ってスパークプラグベース付近の汚れを吹き飛ばします。次にツールキットに付属しているプラグレンチを使用してスパークプラグを緩め、エンジンから取り外します。そのときシリンダー内にホコリや異物が入らないよう注意してください。

外したスパークプラグの電極付近にカーボン堆積物や腐食の兆候がないことを確認します。必要に応じて適切なスパークプラグクリーナー、ワイヤー、金属ブラシなどを使って清掃します。取り除いた汚れがエンジンに入らないように、強力なエアで吹き飛ばしてください。このときスパークプラグの絶縁材のひび割れ、電極の腐食、または複数の堆積物があるのを発見した場合はスパークプラグを交換してください。

電極のギャップは0.7～0.8mm程度です。必要に応じて調整してください。

スパークプラグをエンジンに取り付けるときは、まず良好なワッシャーをスパークプラグに装着し、ねじ山を損傷しないよう注意しながらエンジンシリンダーに手でねじ込みます。ワッシャーがシリンダーヘッドに触れるまでねじ込んだら付属のプラグレンチを使用して締め付けていき、ワッシャーを圧縮します。交換が難しい場合は、お買い求めの販売店にご依頼ください。

 **注意**

スパークプラグは規定のトルクで確実に締め込んでください。取り付けが不完全だとエンジンが損傷する可能性があります。スパークプラグは推奨されている品番の物を使用してください。それ以外のスパークプラグを装着すると、エンジンの性能や耐久性が著しく損なわれ、エンジンの破損につながります。

推奨スパークプラグ

**NGK PMR9B**

電極のギャップ

**0.7~0.8mm**

締め付けトルク(Nm)

**10 Nm (7.38 lb ft)**

プラグキャップは、エンジンの振動によって外れないようにしっかりと取り付けてください。

## 燃料ホース

燃料ホースは、2年ごとに必ず交換してください。

## エアフィルター

このスクーターに採用されているエアフィルターエレメントは、ポリウレタン製のエレメントです。もしフィルターエレメントがほこりなどで目詰まりしてしまうと、吸気抵抗が増えるため、空燃比が濃くなり、結果として出力の低下と、燃費の悪化につながります。以下の手順に従い、エアフィルターエレメントを点検、清掃してください。

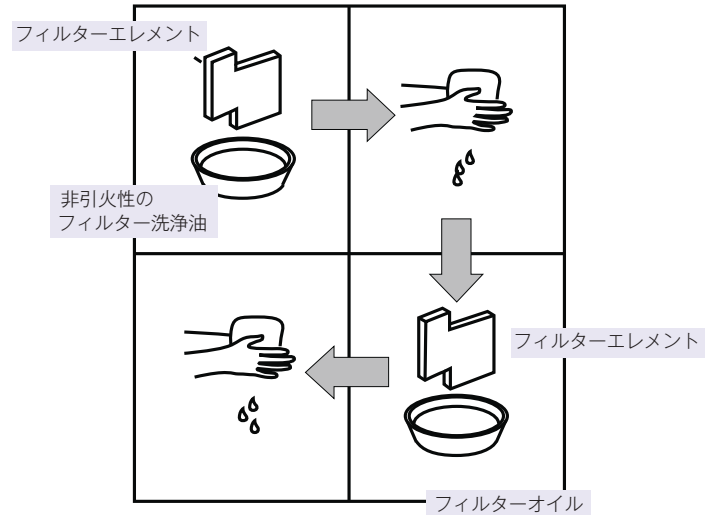
1. スクリューを緩める。
2. フィルター固定スリッパを 2 か所、後方にスライドさせて外す。
3. エアフィルターカバーを外す。
4. フィルターエレメントを外す。

## エアフィルターエレメントの洗浄

以下の手順に従ってエレメントを洗浄してください。

十分なサイズのコンテナに不燃性の水溶性洗剤を入れ、フィルターエレメントを浸し、洗浄します。専用のフィルタークリーナー（MOTUL A1 Air Filter Clean を推奨）が望ましいでしょう。

- 洗浄剤を両掌で押し出すようにして絞り出します。決して絞ったりしないこと。
- むるま湯でよくすすぎ、エアーやドライヤーを用いて乾燥させます。
- フィルターにエンジンオイルを含ませます。余分なオイルは残さないようにしましょう。適度に湿っているのが適切な油量です。エンジンオイルではなく専用のフィルターオイル（MOTUL A3 Air Filter Oil など）を使っていただくとより完全です。
- 仕上がったエアフィルターエレメントを取外した時と逆の手順で取り付けます、エレメントが正しく装着され、隙間などなく確実にシールされていることを確認してください。



### ⚠ 注意

エアフィルター洗浄中に、エレメントの状態をよく確認してください。ほつれ穴あきなどがあるエレメントは、必ず新品に交換すること。運転環境が埃の多い環境の場合、エアクリーナーエレメントはより頻繁に洗浄すること。

### **決してエアフィルターなしにエンジンを始動しないこと**

フィルターエレメントなしでエンジンを始動することはエンジンの摩耗を著しく進行させます。フィルターエレメントは常に最善の状態に保ちましょう。エンジンの寿命はこの小さな部品に大きく左右されます。

## アイドリングの調整

エンジンを始動し、暖気します。

- エンジンの暖気完了後、スロットルストップスクリューを回し、アイドルスピードを1,500~1,800rpmに調整します。
- タコメーターがある場合は、それを確認しながら調整するとより確実です。アイドリングの調整は、必ずエンジンの暖気終了後に行ってください。

## スロットルケーブルの調整

ロックナットを緩めます。

- アジャスターを前後に回して、遊びが適正值（0.5~1.0mm）になるように調整してください。
- 遊び調整した後、ロックナットを締め直します。

## ブレーキフルード

ブレーキフルードは、前後とも DOT 4.1 グレード（グリコール・ベースの油圧ブレーキ専用フルード/MOTUL DOT3&4）を使用すること。

**注意：**シリコンベース、あるいはミネラルオイル・ベースのブレーキフルードと混在させないこと。ブレーキフルードの異種混用は、ブレーキシステムに深刻なダメージを与える可能性があると同時に、制動力が大幅に低下する恐れがあります。加えて、過去の整備などで使った残りのブレーキフルードなどを使用しないこと。ブレーキフルードは吸湿性が高いので、一度開封したブレーキフルードは本来の性能を発揮しません。またブレーキフルードを過剰に充填したり、塗装面などにこぼしたりしないでください。塗装を痛める恐れがあります。

## タイヤ

走り出す前には必ずタイヤの空気圧の点検と、タイヤの表面に異物がないか点検を行うこと。安全性の観点から、またタイヤの寿命や燃費の面からもタイヤの空気圧は定期的に点検し、特に長距離のツーリングや二人乗りの前には十分注意すること。

## タイヤ空気圧

不十分なタイヤ空気圧は、タイヤの寿命を縮めるばかりか、スクーターのスタビリティに深刻な影響を与えます。空気圧が低すぎるとコーナリングは困難になり、高すぎると接地面が減って滑り出したり操作不能になりがちです。タイヤ空気圧は指定の範囲

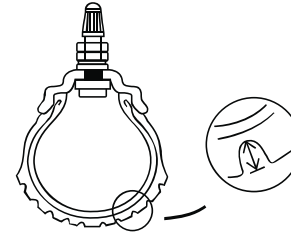
内にあるように十分注意してください。  
また、タイヤの空気圧は冷間時に測定してください。

フロントタイヤ	32psi
リアタイヤ	34psi

**⚠ 注意**

タイヤの空気圧とタイヤの状態は、スクーターが所定の能力を発揮し、また安全にご利用いただくためにも極めて重要です。タイヤの摩耗や空気圧は頻繁に点検するようにしましょう。

### タイヤ接地面の点検



ひどく摩耗したタイヤでの運転はスクーターのスタビリティを損ない、操作不能へとつながりかねません。タイヤトレッド（溝）の深さが1.6mm以下になる前にタイヤは交換しましょう。

**⚠ 注意**

このスクーターのフロントタイヤには110/70-12、リアタイヤには120/70-12が指定されています。指定サイズ以外のタイヤの使用は車両とのクリアランスに問題が生じる恐れがあるほか、保証の適用外となりますのでご注意ください。

## ヒューズ

ヒューズは左側のパネルの下にあります。電気系統に不具合がある場合は、まずヒューズを確認してください。ヒューズが切れた場合に備えて、10A の予備ヒューズが用意してあります。

### 注意

ヒューズ交換の際には、必ず正しいアンペア数のヒューズを使用してください。決してアルミホイルやワイヤーのような代替物を使用しないこと。スペアのヒューズに交換しても、すぐにヒューズが切れてしまうような場合は、電装系に大きな問題が生じていると思われます。必ずお買い求めの販売店に相談してください。

## トラブルシューティング

エンジンが始動しない場合は、原因を特定するために次の項目の点検を行ってください。

- サイドスタンドが完全に格納されているか？
- スターターボタンを押すとき、ブレーキレバーをしっかりと握っているか？
- バッテリーに十分な電力があるか？（電圧が11ボルト未満の場合、エンジンは始動しません）
- 燃料は十分に入っているか？

### 注意

ガソリン漏れには十分に注意しましょう。特に熱を持ったエンジンやマフラー、サイレンサー、イグニッションシステムなどに不用意にガソリンをこぼさないこと。また煙草などの火気を決して近づけないこと。

スパークプラグを外し、プラグキャップに取り付けてエンジンに先端を接触させてアースしたのち、イグニッションスイッチをONにしてエンジンをクランキングさせます。もし点火システムが正しく動作していれば、火花が明確に飛ぶはずです。もし火花が見られない場合は、お買い求めの販売店に相談してください。

### 注意

スパークプラグをスパークさせる場合は、プラグホール近辺で行わないこと。シリンダー内に残留しているガソリンに引火する恐れがあります。漏電によるショックを抑えるため、スパークプラグの金属部分を確実に持ち、エンジンの塗装されていない金属面にきちんと接触させましょう。万が一のことを考え、ペースメーカー装着者や心臓に病歴のある者はこの作業を行わないこと。

## エンジントール（停止）

- 燃料の残量や供給経路を確認
- エンジンのアイドル回転速度を確認
- 点火システムの点検

### 注意

いかなる問題においても、ご自身で解決しようとする前にお買い求めの販売店にご相談ください。保証期間内の場合、まずは販売店が車両を点検し修理する必要があります。保証期間内であっても、お客様個人が車両を修復したり手を加えたりした場合、保証が無効になる恐れがあります。

## 車両を保管する場合

冬季など、長期にわたって車両を使用しないで保管する場合、車両は知識のある者が特別な道具を持って整備し対応する必要があります。このため、長期保管にあたってはまずは販売店に委託していただくことが間違いありません。

もしどうしてもご自身で面倒を見なくてはいけない場合は、以下の各項目を参考にしてください。

### 車体

車体をメインスタンドで立てて、全体を丁寧に掃除しましょう。

### 燃料

燃料タンクは空にしてください。

### バッテリー

バッテリーをスクーターから取り外します。

バッテリーの外側を中性洗剤などで洗浄し、ターミナルやワイヤリングハーネスに錆が見られれば丁寧に取り除きます。取り外したバッテリーは 0 度以上の室温で保管し、かつ適切なトリクル充電器などにつなげておいてください。

## タイヤ

タイヤの空気圧は規定値にしておくこと。（P23/37参照）

## 外装

ビニールあるいはゴム部品など（タイヤを除く）はゴム保護剤などをスプレーしておきましょう。

塗装していない金属面には、MOTUL E.Z. LUBEのような防錆剤をスプレーしておきましょう（ただしブレーキディスクやキャリパーにはかけないこと）。

また塗装面は、高品質のカーワックスなどで保護してください。

**\* こうした作業は長期保管の前だけではなく、Royal Alloyをご購入になった後の最初の仕事としていただければと考えます。このスクーターを末永くご愛用していただくための、通常のケア&メンテナンスとして、ぜひ楽しみながら行ってください。**

## 再び走り出すための準備

スクーター全体を清掃しましょう。

次いで、燃料を補給します。

その後、満充電のバッテリーを装着して、タイヤの空気圧を規定値に戻します。

最後に、本マニュアルに記載されているとおり、必要箇所すべてを潤滑しましょう。

※始業点検の項目をよく確認してください。



## 諸元表

<b>モデル名</b>	<b>GP250S</b>
寸法(mm) 軸距離(mm)	1845×670×1115 1390
車両重量 (kg) 最大荷重(kg) 燃料タンク容量(L)	152 340 10.5
エンジン形式	水冷SOHC4バルブ単気筒
排気量	244cc
ボア×ストローク	72.0×60.0mm
圧縮比	11.0 : 1
最高出力	15.9kw/7250rpm
最大トルク	19.0Nm/5000rpm
燃料供給装置	マニエティ・マレリ製
バッテリー	12V9.0Ah

フレーム	スチール鋼管フレーム＋ モノコックスチールボディワーク
フロントサスペンション	アンチダイブ機構付きダブル・ ショック、プリロード調整式
リアショック	コイル/油圧式ツインショック
ブレーキシステム	ABS/メッシュホース
ブレーキディスク径	220mm
フロントタイヤ	110/70-12 チューブレス
リアタイヤ	120/70-12 チューブレス
灯火類	LED



*A Real Classic*

